



クウェイト：体制転換疑惑問題の決着

ナースル元首相、ジャーシム・ホラーフィー元国会議長が体制転換を企てたとする疑惑について、3月18日、検察は同疑惑の根拠とされる二人の会話を収録したテープは改ざんされた形跡があり、信頼できるものではないとの判断を下した。検察は、両名については証拠不十分につき起訴しないとの声明を発出した。これを受け、同テープを検察に提出し、両名の疑惑を追及していたアフマド・ファハド元副首相は、3月26日にクウェイトTVの放送で謝罪した。同元副首相は、「自分が受け取った情報（テープ）は正しいものだと思ったが、司法の判断によりそれは否定された」、「今後この問題について取り上げることはない」と述べ、サバーフ首長、ナッワーフ皇太子、ナースル元首相、ホラーフィー元国会議長への謝罪を表明した。

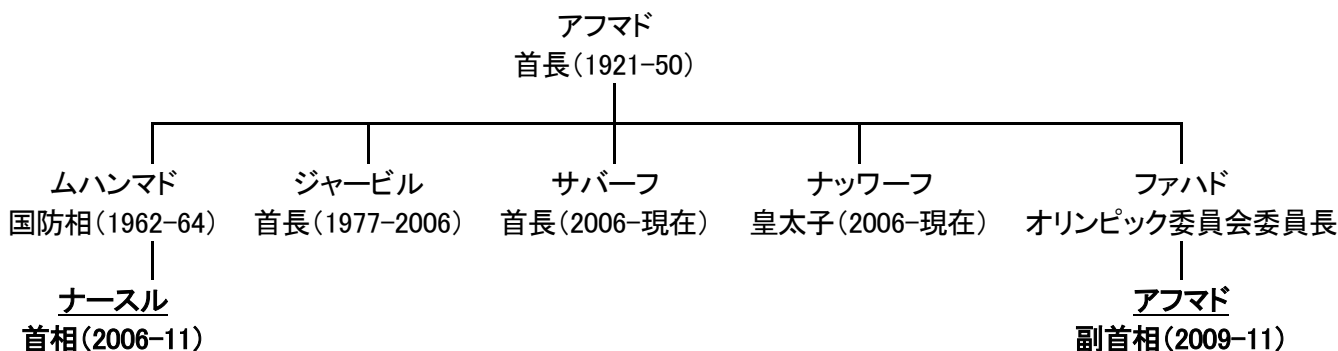
評価

2013年12月の問題発覚以来、国内で大きな議論を呼んでいた体制転換疑惑は、アフマド・ファハド元副首相が謝罪を表明したことで、終息する見込みである。疑惑の根拠となる体制転換に関する二人の発言について具体的なことは一切報じられず、2014年4月には同問題を報じた国内紙2紙に2週間の発禁処分が下るなど、厳しい報道規制が敷かれた。また、これは汚職問題と関連して議論されたこともあり、2014年6月から7月にかけてムサッラム・バッラク元議員が主導するデモが発生するなど、国内の不安定化につながりかねない問題であった。

問題が持ち上がった背景は依然として不明であるが、疑惑を追及した側もされた側も政府の要職経験者であるとともに、王族の中心的人物であったことが、実態以上に問題を大きくしたと見られる。2014年4月、ハムダーン・アージミー議員は「これは王族内の支配とカネを巡る内紛」であり、「国民はこのような問題に飽き飽きしている」と問題の発生自体を非難した。

(村上研究員)

図：関係王族の家系図



◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧下さい。URL : <http://www.meij.or.jp/>